

令和 6 年度保育所評価

NPO 法人子どもの家あおぞら保育園

【保育理念】

子ども一人ひとりを大切にし、保護者からも信頼され、地域に愛される保育園を目指す

【保育方針】

豊かな人間性を持った子どもを育成し、心と体の自立を促す保育をする

【保育目標】

- ・自然の中でのびのびと遊べる子ども
- ・心も体も元気な子ども
- ・自分も友達も大切にできる子ども

はじめに

今年度は4月当初、園児 22 名でスタートし、7月からは 23 名、12 月からは24名、1月からは25名となりました。

職員体制は、園長、常勤保育士7名、非常勤保育士4名、常勤調理員1名、非常勤調理員 2 名となりました。

今年度も、保護者の皆さまやご家族の皆さま、地域の方々に見守られながら、様々な行事や日々の保育を無事行うことができました。

次年度も引き続き一人ひとりの子ども達にたくさんの愛情を注ぎ、成長・発達を見守りながらより良い保育を目指していきたいと思います。

保育

春の遠足は今年度も大型バスを利用して遠足に行くことができました。
大きなバスに乗っていくことをとても喜び、楽しい遠足となりました。次年度も子ども達が楽しみにできるよう行先等を検討していきたいと思います。

親子レクは父母会と共同で輪厚児童体育館でおこないました。親子でゲーム等をし、保育園のホールにてみんなでお弁当を食べ楽しい時間となりました。

年長児の体験会は、むらかみ牧場で乳しぼり、アイスクリーム作りを体験しました。前年度の反省を生かして日程の変更をしましたが観光客等の増加により、園児が単独で体験を進めることができず時間がかかってしまったことから、次年度は体験の内容の変更を検討したいと思います。

運動会や発表会は、例年通りたくさんの保護者やご家族、地域の方々に参加してもらい賑やかに行うことが出来ました。0歳、1歳、2歳児は年齢にあった競技で一生懸命頑張る可愛い姿を見ていただき、3歳以上児は一人ひとりの目標や課題にむかって頑張る姿やその成果にたくさんの応援と拍手をいただき、子ども達にとっても大きな自信と成長につながったことと思います。

日常的にはリズム遊びや鉄棒・縄跳びで全身を使っの遊び、畑の野菜の収穫、水遊びや泥遊び、雪遊びなど季節の遊び、指先を使ったり考えたりする遊び、季節の行事に合わせて製作・造形活動など様々な遊びを経験し成長していく姿がみられました。

少人数での保育の利点をいかし、一人ひとりの発達にあわせて丁寧に関わりながら成長を見守り、安全面には十分留意しながらも、子どもたちが毎日のびのびと元気に遊び、成長していくことができるよう努めたいと思います。

地域との連携・交流

恒例となっている西部地区文化祭への出展をして、地域の方々に子ども達の作品を見ていただくことができました。

誕生会には地域のお話し会の方に来ていただいたり、輪厚児童体育館を子どもたちの運動遊びの場として定期的にご利用させていただいたりしています。また、発表会や卒園式の時には、職員用の駐車場として西部出張所の敷地内の利用をさせていただいています。又、ハロウィンには地域の方にご協力をいただき、子どもたちのためにおやつを準備していただき子ども達も大喜びでした。西部小学校の1年生との交流の場は楽しいゲームや遊びを準備してもらい、年長児にとっては小学校生活のイメージを持つ良い機会となりました。

また西部小学校の主幹教諭の先生と年長児保護者との懇談会も開催し、入学前の不安や心配事などを直接お話しすることが出来る貴重な時間となりました。

あおぞらサロンの利用者はあまり多くなく、年間を通して数回の利用があっただけでしたが、入園を検討の方が園見学も兼ねて利用していただくこともありました。今後もサロンの広報活動にも力を入れ、内容等も検討しながら少しでも地域の子育て支援の役割を担えるようにしていきたいと思います。

子育て支援・保護者支援

園だよりや連絡ノートで毎日の様子をお伝えしたり、登降園の時に直接お話をする時間をつくったり、個別にお話をする時間をつくったりと、様々な形で子どもの育ちや成長を伝えるようにしました。保護者の方々からも連絡帳等で家庭での様子などを伝えていただくことで日々の保育に活かすことが出来ました。

7月の親子レクでは、保護者同士が知り合い子育ての仲間として様々な話ができる場となるように父母会役員の方々と連携して開催しました。今後も保護者同士が子育ての仲間として交流できて、親子共に楽しい場となるように内容の検討をしていこうと思います。

そして、保護者の方々の子育ての悩みや心配ごとに寄り添い、子どもの成長を共に喜び合いながら楽しい子育てとなるよう努めたいと思います。

今後も、保育者一人ひとりが子育て支援・保護者支援の在り方や大切にすべきことを忘れず、保護者の方々との信頼関係を築けるよう努力し安心感を持って子育てが出来る環境づくりに力を入れていきたいと思います。

保護者の皆さまはもちろん、地域の子育て支援としての場ともなれるように努めていきたいと思っています。

保育の質の向上のために

子ども達は1日の大半を集団で過ごしているため、その日1日が落ち着いて気持ちよく過ごせる環境づくりが大切であり、園での遊びが年齢や発達段階にあった活動内容や玩具であること、子ども一人ひとりが主体的に遊べる環境であることが大切です。

中でも、事故やけがの無いように安全確保は最重要課題ですので、そのためにも保育環境の整備、備品・遊具の劣化等の確認や入れ替えは定期的におこなってきました。

そして、日々の保育打ち合わせ等で子どもに関する情報共有をおこない、話し合いをおこない、毎日の保育の振り返りを大切にしてきました。

子ども達が過ごしやすく遊びやすい環境と保育者が働きやすい環境を整えるためにも今後は、保育者一人ひとりが保育内容を考える時間や子ども一人ひとりと向き合う時間の確保をして、園の保育の質の向上と個々の保育士の質の向上を目指していきたいと思います。

その子らしさを大事にする子ども主体の保育をおこない、一人ひとりの子どもが心身ともに満たされ様々な経験を積み重ねていくことを大切にして保育をしていきたいと思います。

終わりに

「子ども主体」という言葉が最近よく言われています。また、「子どもには可能性がある」という言葉もよく耳にしたいと思います。これからの新しい時代を生きる子ども達には受け身で対処するのではなく主体的に向き合って関わる、その中で自分の可能性を最大に発揮して、幸せな人生を自分でつくりだしていく、そんな子を育てていくことが大切だということだと思います。

求められているのはその子が「出来るか出来ないか」という結果ではなくその子が「やってみたいと思うかどうか」が大切なのだということだと思います。子どもは、やりながらできるようになります。私たち大人は「やってみたい」気持ちを受け止め挑戦を見守り、出来なかったときには「もう一回」を応援します。結果よりもプロセスを重視し「できたこと」だけでなく「やろうとしたこと」が大事にされる環境でありたいと思います。幼児教育の場が温かい場所であることを願います。